



# 奈川のみかたをふやす道標

持続可能な奈川地区推進計画 2023

2023年8月

持続可能な奈川地区推進協議会



## はじめに

松本市の南西部、中山間地域に位置する奈川地区は、市内で最も人口減少と少子高齢化が顕著な地区であり、働く場や教育、子育て環境など多くの課題が山積し、自治機能の維持が難しくなっています。このままの状態が続くと、10年後20年後、奈川地区での生活が非常に厳しいものになることが容易に想像されます。

奈川地区で暮らし、働き、学ぶ一人ひとりが幸せで充実した毎日を過ごせるよう、奈川の特性を生かした総合的な地域づくりの取組みが、今一度必要となっています。

そのため、将来にわたって奈川地区が持続可能な地域となるための取組みを進めていくために、2021年9月に「持続可能な奈川地区推進協議会」を設立し、地域住民の皆さんをはじめ、関係団体や松本市、専門家などが様々な意見交換や調査、ワークショップなどを経て本計画づくりを進めてきました。

この道標を抛り所にしながら、奈川地区に関わる一人ひとりが、自分たちでできることを考え、実践していくきっかけにもなればと思います。今後の奈川地区で多様な取組みが着実に進められていくことを展望しています。



## 目次

はじめに

<b>1. 計画の策定について</b>	<b>3</b>
1-1 この計画について	
1-2 計画の位置づけ	
1-3 計画づくりに関連したこれまでの動き	
1-4 計画の構成	
<b>2. 地域の現状と課題</b>	<b>7</b>
2-1 奈川地区の概要	
2-2 奈川地区への想い（魅力・課題）	
<b>3. 地域づくりの方向性</b>	<b>12</b>
3-1 地域づくりの視点	
3-2 地域づくりの目標	
3-3 取組みの4つの柱	
<b>4. 地域づくりの推進</b>	<b>16</b>
4-1 地域の暮らしをささえる	
4-2 子どもたちを育む場をつなげる	
4-3 奈川ならではのなりわいをつくる	
4-4 来訪者との新たな関係をつむぐ	
4-5 4つの柱と取組みのプロセス	
<b>5. 今後の重点的な取組み</b>	<b>22</b>
5-1 奈川地区の観光・交流施設の新たな展開について	
5-2 奈川保育園や奈川小中学校の今後の可能性について	
5-3 公共交通や地域主体の移動の足のあり方について	
5-4 クラインガルテンの地域での新たなあり方について	
5-5 農林業の維持・継承の仕組みづくりについて	
<b>6. 地域づくりの実現に向けて</b>	<b>25</b>
6-1 計画の推進を支える体制づくり	
6-2 計画の推進を担う人材の発掘・育成	
6-3 地域主体の新たな活動を生み出す動き	

おわりに

# 1. 計画の策定について

## 1-1 この計画について

『持続可能な奈川地区推進計画 2023』は、概ね今後 10 年の奈川地区をどのような地域にしていくのか、地域住民とともに、奈川を応援する地域外の人たちや行政の協力も得ながら、取り組みを進めていくための道標（みちしるべ）となるものです。

この計画に位置づけられている地域づくりのビジョンや取り組みの 4 つの視点、今後進められる各種の事業や活動は、奈川地区の住民が主体となりながら、奈川を応援してくれる地域外の人たちや行政・関係団体など、多くの主体の参画と協働によって実現を目指していくものです。

全国的にも少子高齢化が進展する中、居住人口だけではなく、交流人口や活動人口といった視点も大切に、地域住民をはじめ奈川地区に関わる多様な人たちが楽しく、幸せに過ごす状況を生み出していくことが大切です。そのことが、ひいては地区への移住や定住にもつながる「持続可能な奈川」への実現へとつながります。

これらの地域づくりの基本姿勢と具体的な行動を示すものとして本計画を策定します。



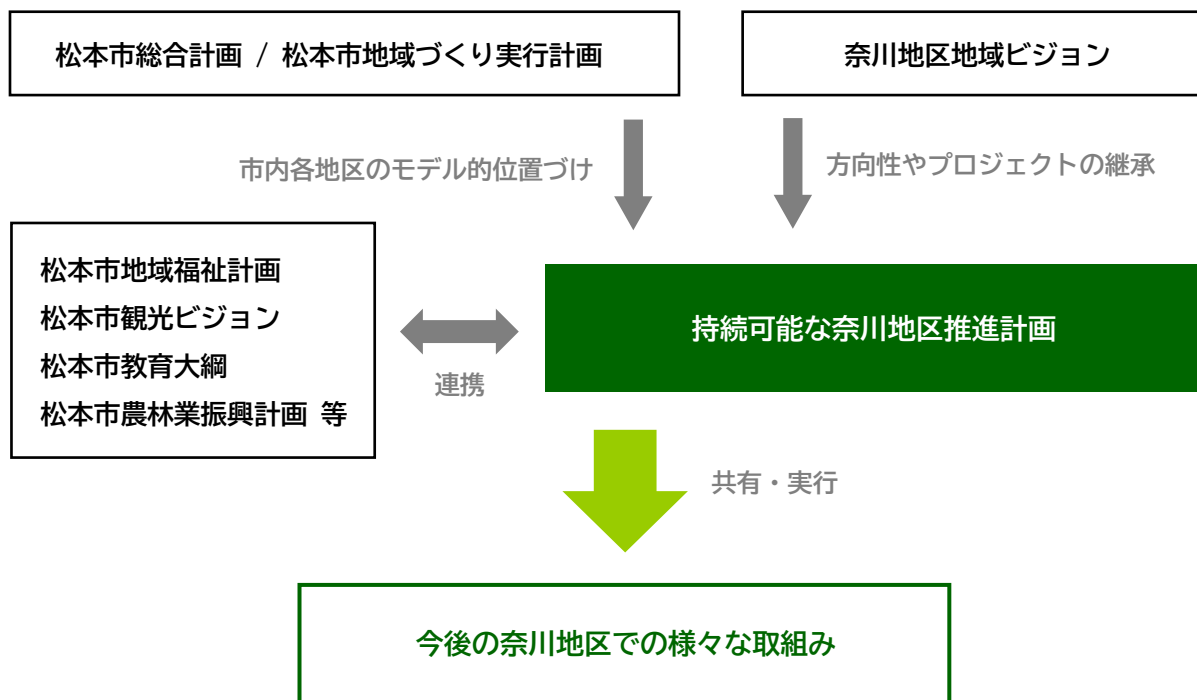
## 1-2 計画の位置づけ

奈川地区では協議会の母体の一つである「ふるさと奈川をおこす会」が2019年10月に『奈川地区地域ビジョン』を策定し、地域の特性と現状、めざす将来の姿、重点テーマと目指す方向性、協働プロジェクトなどについてまとめています。本計画はこの流れも引き継ぎながら、この間の社会・地域の状況変化などを踏まえて再整理を行っています。

また、松本市においては、市の総合的な施策・事業の指針となる『松本市総合計画（基本構想2030・第11次基本計画）』を策定しており、この中で示されている理念や目標、施策と本計画の内容を連携させ、地域とともに行政も当事者意識をもって取組みを進めていくものとしています。

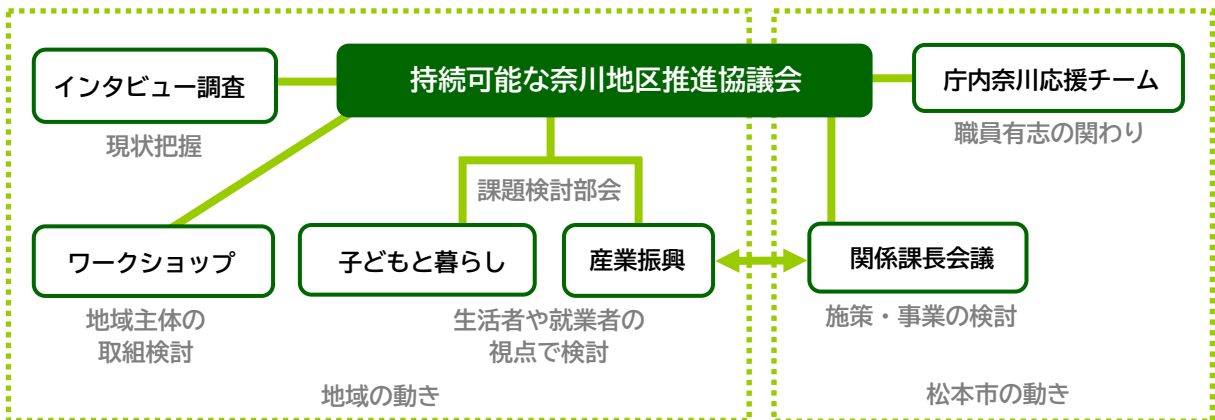
また、市の福祉や観光、教育などの関連計画との連携も図ります。さらに、松本市では2022年3月に『第3次松本市地域づくり実行計画』を策定しており、市内の地区ごとに地域づくり推進のための体制をつくり、取組みを進めていくことが定められています。奈川地区は市内でも先駆けてこの流れを進めることとなっており、本計画の実現を含めて松本市におけるモデル的な地区として期待されています。

今後は、地域も行政も、この“奈川のみかたをふやす道標”と題した『持続可能な奈川地区推進計画2023』を基本として地域づくりを進めていきます。相互に連携を図りながら取り組んでいくためにも、奈川地区地域づくりセンターが中心となり、相互の架け橋となることで、取組みの継続につなげていきます。



### 1-3 計画づくりに関連したこれまでの動き

本計画は持続可能な奈川地区推進協議会の設立（2021年9月）から、課題検討部会やインタビュー調査、ワークショップなど地域での動きとともに、松本市役所での関連各課による検討と連動する形で策定が進められました。課題検討部会は「子どもと暮らし」と「産業振興」の2つテーマを設定して奈川の生活者や就業者の視点から意見交換を進めました。また、2022年度には、地域の方々へのインタビュー調査やワークショップも実施し、具体的な取り組みに向けた動きも生まれています。これらの多様な主体によるプロセスを経て本計画がとりまとめられました。



推進協議会設立総会



課題検討部会（子どもと暮らし）



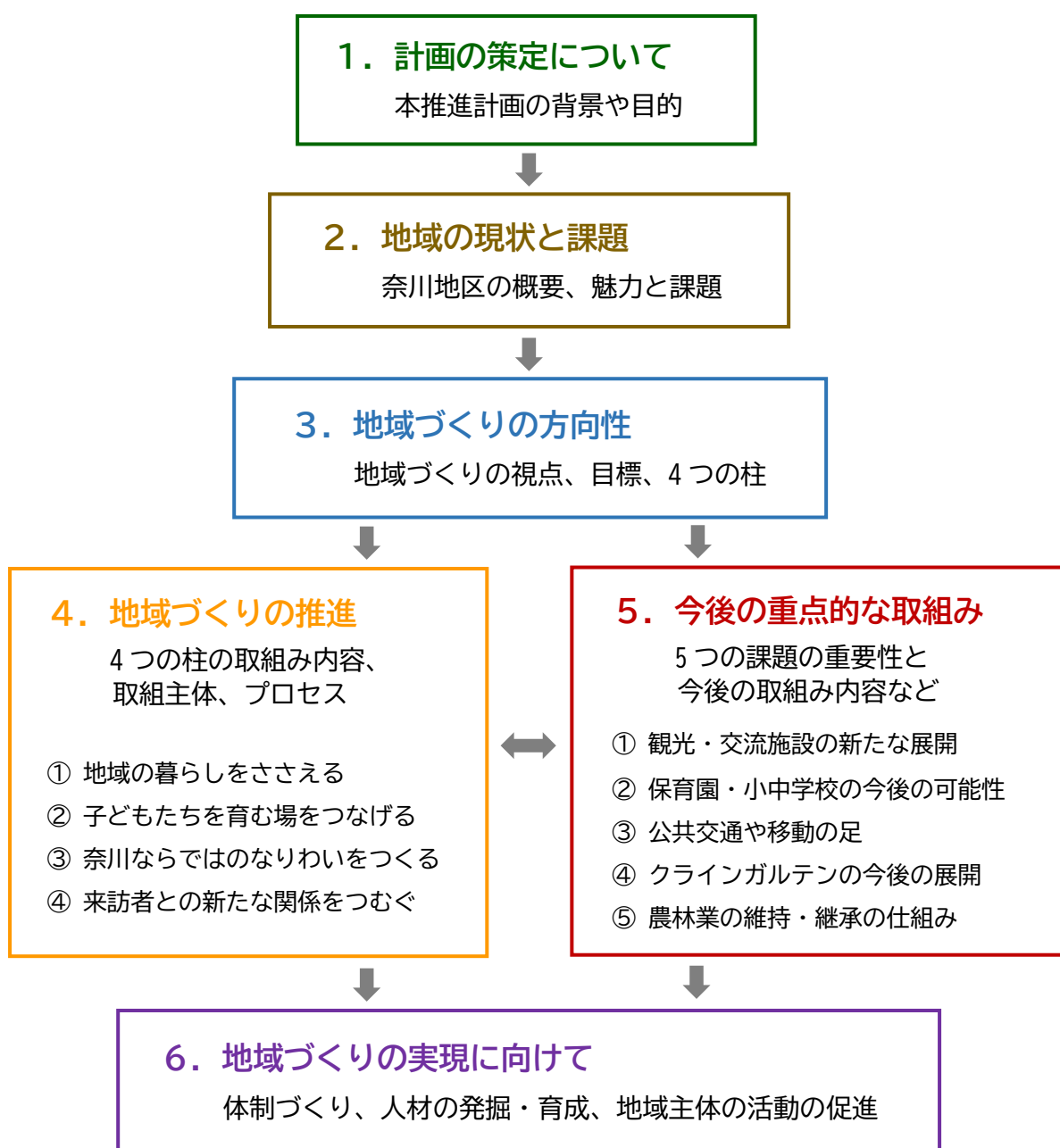
課題検討部会（産業振興）



関係課長会議（松本市役所）

## 1-4 計画の構成

本計画は大きく6つの章で構成しています。1章では本推進計画策定の背景や目的について記載しています。2章では奈川地区の現状について各種データやこれまでの地域の皆さんからの声を整理しました。3章では今後の地区づくりの視点や目標、さらに今後の取組みの4つの柱について定めています。4章では4つの視点ごとに、今後の取組み内容を記載し、それらのプロセスを示しています。5章では松本市等と連携しながら早急かつ重点的に取り組んでいくべき内容についても整理しています。最後の6章ではこれらの実現を支える仕組みづくり等について提言しています。





## 2. 地域の現状と課題

### 2-1 奈川地区の概要

奈川地区は周囲を上高地、乗鞍、白骨温泉など北アルプスに広がる観光地に取り囲まれた風情豊かな地域です。かつては野麦峠を越えて工女たちがこの郷を往来し、ブリ街道としても松本平に「年取魚」が運ばれていきました。様々な人々や文化が行き交った奈川は、人々の温かいもてなしと、生活の知恵と心が今でも息づいている郷です。「奈川獅子」など文化的な資源を地域で継承するとともに、「とうじそば」の発祥の地としても知られており、スキーやキャンプ、釣りなど四季を通じてアウトドアが楽しめるエリアでもあります。



美しい里の風景



とうじそば



奈川獅子

#### ① 人口減少と少子高齢化

奈川地区内には現在 14 の町会があり、それぞれで特徴的な暮らしが守られてきましたが、松本の市街地から 36km の山間地域にあるため人口密度は低く、ダム建設に伴う集落移転や雇用環境の変化などもあり、近年では人口減少と少子高齢化が進行しています。

◆人口 584 名（男性 280 名、女性 304 名） ◆世帯数 291 世帯 ◆高齢化率 51.7%

	川浦	保平	神谷	寄合渡	曾倉	大平	追平	金原	黒川渡	屋形原	古宿	田ノ萱	入山	奈川高原	計
世帯数	8	12	21	50	12	7	10	21	55	11	40	19	7	18	291
人口	19	25	41	124	26	15	15	36	103	22	77	38	14	29	584

令和 5 年 5 月現在

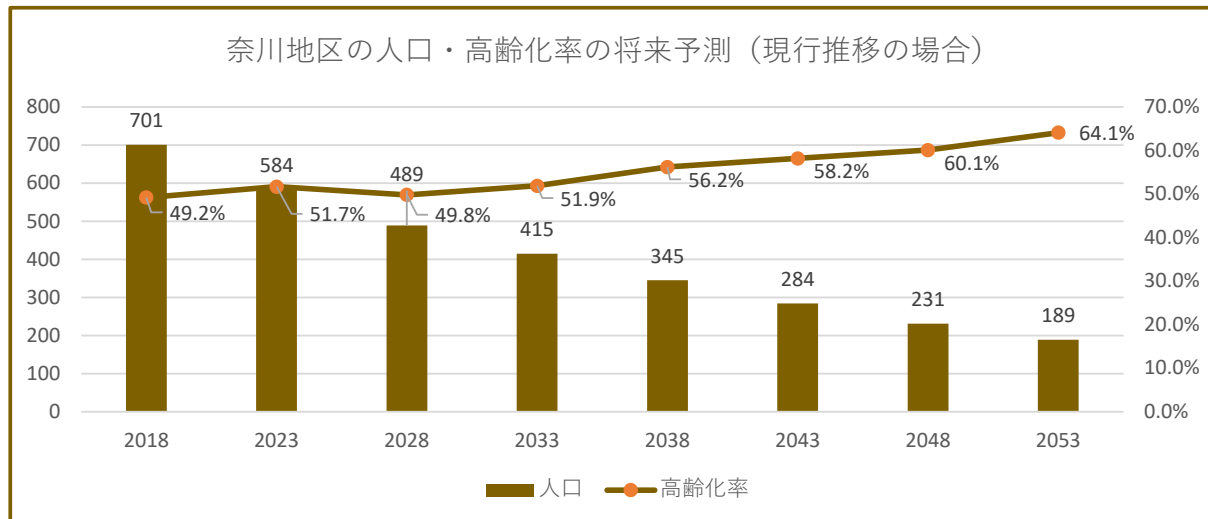
特に子どもの数については大きな課題となっています。未就学児の減少により奈川保育園は 2019 年より休園中で、現在は近隣地区の保育園までタクシー送迎が実施されています。また、奈川小中学校においても、今後の児童・生徒数の減少によっては、学級数や教員のさらなる削減も懸念される状況となっています。

◆子どもの人数 0～6 歳：10 名 7～12 歳：8 名 13～15 歳：9 名 16～18 歳：10 名

◆奈川小中学校（令和 5 年度）

全校生徒 17 名（中学校 9 名：2 クラス）（小学校 8 名：2 クラス） 教職員数 23 名

奈川地区の今後の居住人口は、現行推移の場合の予測では、10年後（2033年）には400人台前半に、30年後（2053年）には200人を切るという厳しい数値が出ています。また、高齢化率についても、右肩上がりが続く、30年後には地域住民の3人に2人は高齢者という状況になってしまいます。今後も高齢者が元気に暮らせる地域づくりを進めつつ、若年層の定着や子育て世代をターゲットとした移住方策の推進が求められています。



人口・高齢化率の予測（コーホート変化率法による現行推移の場合）

一方で、近年では少しずつ若い世代の移住がある集落もあり、地域で子どもの声が聞こえる明るい兆しも出ています。奈川地区へのさらなる移住・定住を促していくために、クラインガルテンの利用者も含め、地域住民との段階的な関係づくりや、地区内の空き家の活用なども期待されます。

- ◆滞在施設 クラインガルテン 3カ所（計60棟）
- ◆空き家 地区内に45戸（使用できそうなもの）

## ② 農林業の担い手不足

奈川地区は面積の約95%を広大な森林が占めており、その45%が公有林、55%が民有林となっています。ほとんどの町会が森林を有し、その育成・管理を行ってきた伝統があります。これらの森林をはじめ、公有林も含めた森の活用については、近年の担い手不足や木材需要の観点などから課題となっています。



奈川の木材資源

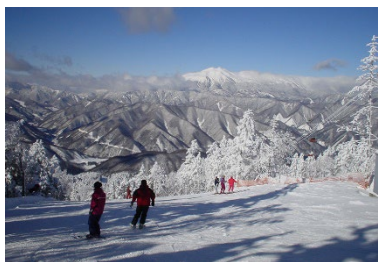
農業においては、冷涼な気候を生かし、そばをはじめ、保平カブや花豆、えごまなどを生産してきました。近年は、農家の高齢化などを背景に、傾斜地にも広がる農地の保全について、担い手の発掘、育成も含めた仕組みづくりが課題となっています。



保平カブ

### ③ 観光・交流施設の課題

観光においては、奈川地区の入込客数と野麦峠スキー場の利用客は、ともに 1993（平成 5）年度がピークで、その後右肩下がりになっています。2003（平成 15）年度頃から下げ止まりの傾向がありましたが、ここ数年はコロナの影響もあり、再び減少傾向にあります。スキー場は、これまで冬季の地元雇用の役割も担ってきましたが、近年はその役割を担うことも難しく、松本市の財政負担の面からも十分な施設・設備の維持管理等が厳しい状況となっています。



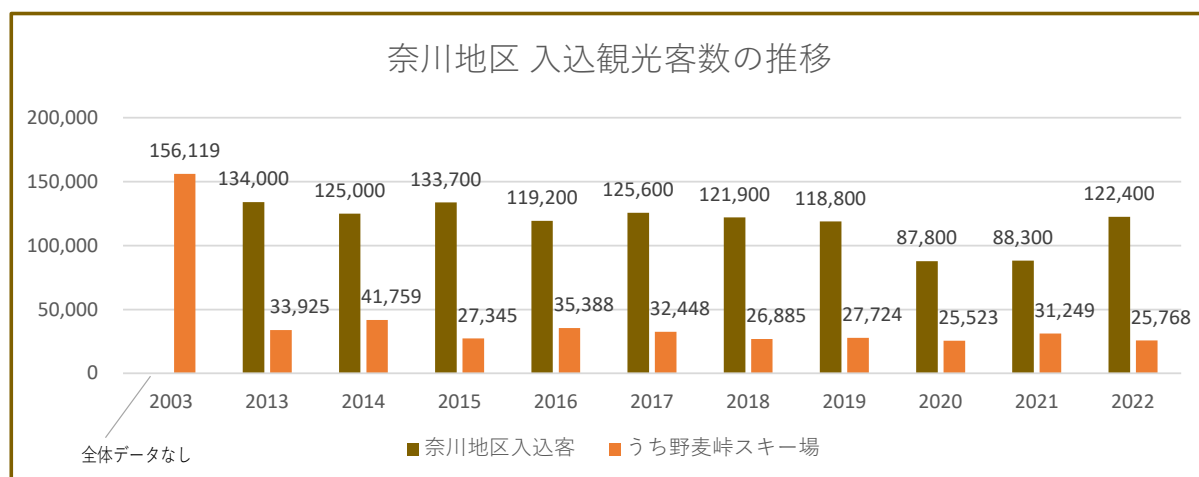
野麦峠スキー場



高ソメキャンプ場



ウッディ・もっく



入込観光客数の推移

奈川地区内のその他の観光・交流施設においても、維持管理や運営などにおいて、新たな展開も含めた方策が必要となっています。また、ハード面のみならず、情報発信やプログラムなどのソフト面においてもアイデアが求められます。さらに、地区内には魅力的な宿泊施設や飲食店、販売店などもあり、これらと連携した取組みも期待されます。

- ◆観光施設 野麦峠スキー場、高ソメキャンプ場、野麦峠オートキャンプ場、ウッディ・もっく、フォーレストフィールド、フィッシングエリア
- ◆宿泊施設 奈川温泉 1 軒 新奈川温泉 2 軒 渋沢温泉 7 軒 民宿・ペンション 11 軒
- ◆飲食店 そば店 4 軒
- ◆販売店 ながわ山彩館、山菜加工会社、酒店、パン屋、チーズ工房、等

## 2-2 奈川地区への想い（魅力・課題）

インタビュー調査やワークショップを通じて、奈川地区の現状に対する地域の皆さんの想いが明らかになりました。「暮らし全般」「子育て・教育」「産業・仕事」「観光・交流」のそれぞれに関して、奈川地区の良いところ（魅力・資源・自慢）と、心配なところ（課題・不安・困りごと）について整理を行いました。

### ① 奈川地区の良いところ（魅力・資源・自慢）

四季折々の美しい自然や、豊かな山の暮らし、豊富な観光資源とともに、近年のライフスタイル変化やニーズを地域づくりの新たな可能性として捉える視点が多く聞かれました。また、高齢者が元気なことや、親戚が近隣に居住しているケースも多く、買い物や緊急時の助け合いができるのも強みであることがわかりました。

#### 暮らし全般

自然豊かな生活  
移動販売車 落ち着きがある  
優しくて親切な人  
野菜のお裾分け  
家族・親戚が近くにいる安心  
お年寄りが元気 人のつながりがある  
お年寄りの生活の知恵  
祭や伝統行事  
星空 山の暮らしの体験  
街道の歴史や文化  
来訪者に対してオープン  
タカの渡り  
キャンプ場  
溪流釣り  
四季折々の風景

#### 子育て・教育

子どもたちが素直  
小規模校ならではの教育  
地元食材の給食  
移住世帯の子どもたち  
ご近所さんが頼りになる  
自然を生かした学び  
親子向けの地域活動  
自然や文化を大人も学べる  
自然の中での遊び  
活用したい場所がある  
光ファイバー網の整備  
そばを打てる人が多い  
農を副業とした暮らし  
リモートワーク  
働き方の多様化  
本格的なチーズ工房  
建設会社がある  
（株）ふるさと奈川の人材  
特産品づくり  
風景を守る畑仕事

#### 観光・交流

#### 産業・仕事



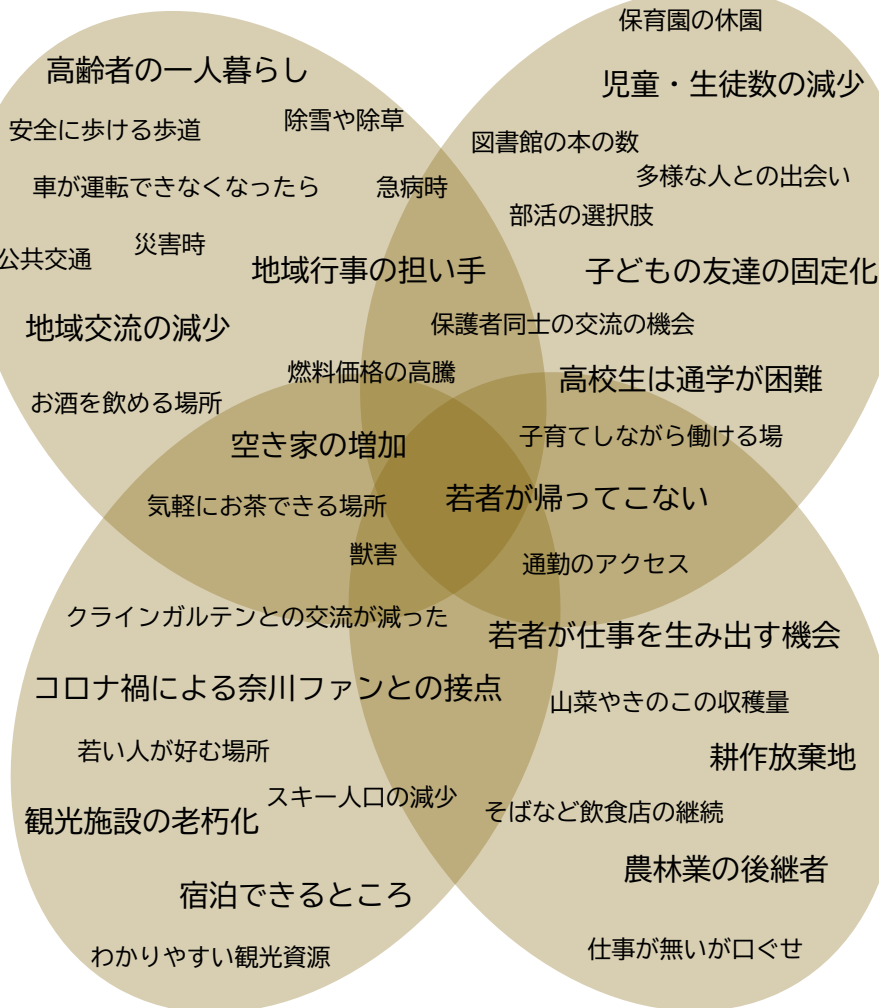
インタビュー結果をワークショップで共有

## ② 奈川地区の心配なところ（課題・不安・困りごと）

少子高齢化や子育てや学びの環境、若い世代の仕事の場、日常的な交流の機会などについて、心配な声が多く聞かれました。また、農林業の担い手や観光交流施設の今後について心配な意見も見られました。一方で、「課題」は「魅力」と表裏一体の面もあり、視点を変えてよりポジティブに捉えていく心構えが大切だという意見もありました。

### 暮らし全般

### 子育て・教育



### 観光・交流

### 産業・仕事

### 3 地域づくりの方向性

#### 3-1 地域づくりの視点

## みかたがふえる奈川に

今後の奈川の地域づくりにおいては、地域住民はもちろん、地域外の仲間と協力していくことも必要です。「みかたがふえる奈川に」は、これまで地域の皆さんからいただいた数多くの意見をもとにした、今後の取組みにおいて、常に意識しておくべき奈川独自の視点となります。そして、この「みかたがふえる」には、次の2つの意味が込められています。

#### ① 奈川の「見方」を増やす

奈川地区はたくさんの魅力にあふれた地域です。都会のような至便な地域ではないですが、四季の風景が移ろい、のどかな郷の暮らしに喜びを感じる人たちがいます。一見すると地域の課題も、「見方」を変えれば資源と捉えることもできるでしょう。日本全体が人口減となった今、地方の小さな地区での取組みが注目を集めるようになってきました。高齢化率50%であっても奈川のシニア世代は元気な人が多く、逆に「見方」によっては「若手」が半数もいるとも言えます。奈川地区を多様な「見方」で捉え直し、知恵を出して新たな活動を生み出していくことが大切です。



## ② 奈川の「味方」を増やす

地域外の人たちに、ともに地域づくりを担う「味方」になってもらいましょう。河川流域の人たちにとって、上流に位置する奈川地区の豊かな環境はとても大切なものです。また、蕎麦などの特産物や、街道のおもてなし精神など、外部の人たちとの関係をつくる強みも奈川地区にはたくさんあります。コロナ禍を契機とした多拠点居住やリモートワークなど、田園回帰の社会的なニーズも新たな「味方」を増やす後押しとなるでしょう。近隣地区に居住している家族・親戚や、学びの場として活動している大学生なども含め、奈川の「味方」の知恵や行動力を生かしていくことが必要です。



奈川地区には都市部とは異なる特徴や強みがたくさんあります。ここに住み、働き、学び、活動するからこそ得られる人生の豊かさや楽しさがあります。地域住民はもちろん、奈川地区を好きになり、応援してくれる人たちとも、これらの喜びを分かち合える地域づくりを進めていきます。奈川に関わる一人ひとりが幸せで、持続可能な地域をつくっていくために、2つの「みかた」を増やしていきましょう。

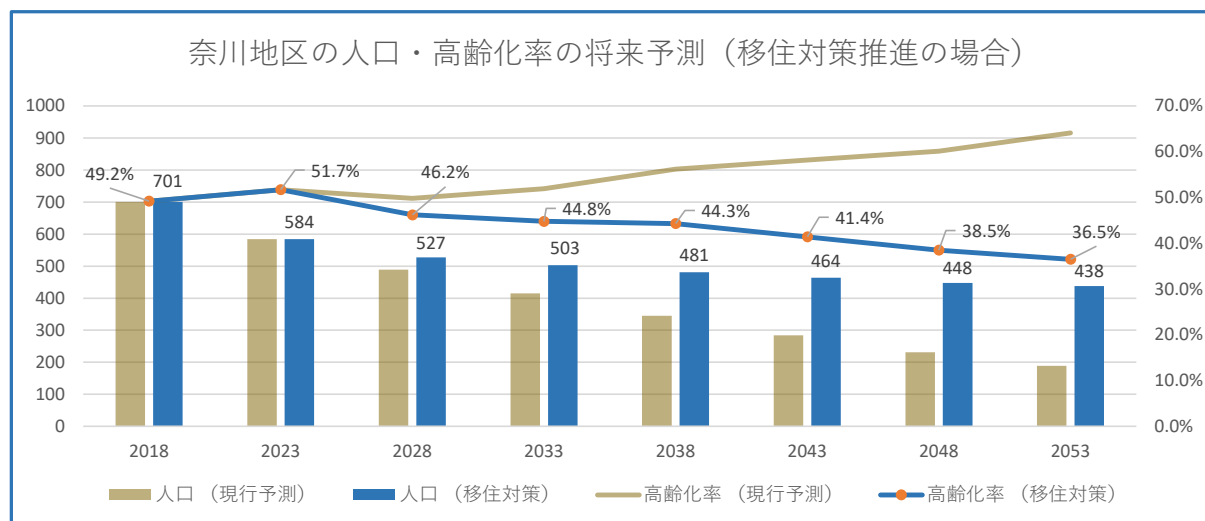
### 3-2 地域づくりの目標

## 人と暮らしと活動を、受け継ぎ・生み出す、持続可能な奈川地区

地域の歴史や文化、豊かな暮らしを未来に受け継ぎ、奈川に関わる様々な人たちの活動を生み出し、支えていく地域づくりを進めていきます。「持続可能」な奈川地区であるために、居住人口の減少をできるだけ抑え、移住者（定住者及び季節滞在や週末滞在等）を着実に増やしていくことを目指します。そのために、移住につながる様々な人との交流や、子育てや学びの環境づくり、新たなライフスタイルの実現、仕事づくりや地域活動などの創出・支援などについて、地域と行政が協力して展開していきます。

### ① 移住・定住の積極的な受け入れ

奈川地区において最も懸念すべき課題は居住人口の急激な減少です。新たなライフスタイルや働き方の多様化など、田園回帰のニーズの高まりのあるいま、本気で奈川地区の人口の取り戻しと安定化を探る人口ビジョンが必要です。現行の人口推移の予測（P8のグラフ）では非常に厳しいイメージとなっていますが、奈川地区のような総人口が小規模な地区においては、数世帯の定住が新たに生まれるだけで状況が大きく変化することも特徴です。



人口・高齢化率の将来予測（コーホート変化率法による移住対策推進をした場合）

上記のグラフは奈川地区において、今後毎年、3世帯（計7名）※の移住があった場合の人口・高齢化率の予測です。この場合、10年後（2033年）の人口は500人程度を維持し、その後は400人台で安定していくという将来像をイメージすることができます。高齢化率も徐々に減少に転じ、30年後（2053年）には30%台が見えてきます。

※「3世帯（計7名）」については、比較的社会移動しやすい年代である、20代前半（男女）・30代前半（夫婦+4歳以下の子供）・60代前半（夫婦）を想定しました。これらの変数を導入した分析（コーホート変化率法）によって人口ビジョンのシミュレーションを行いました。



## ② 奈川地区の人口ビジョン

人口・高齢化の予測因子は若年層の転出や合計特殊出生率なども関係しますが、奈川地区の高校・大学等への通学の現状や、合計特殊出生率(1.32で全国平均と比べても小さくない)を勘案すると、「毎年、3世帯(計7名)の移住」が現実的で共有しやすい水準であると考えられます。7名という数は、現在の人口の1.2%にすぎず、昨今の奈川地区の移住の状況を鑑みても実現不可能な要件ではありません。2023年からすぐにといい話ではなく、今後の様々な取組みを通じて、数年後からこの要件をクリアしていくことを想定します。もちろん、この要件を上回ることができれば、さらに夢のあるシナリオへの修整も可能となります。

### 【奈川地区の目標とする人口ビジョン】

- ・ 10年後(2033年)に500人程度を維持
- ・ 30年後(2053年)も400人台の水準で安定

### 【達成のための要件】

- ・ 毎年3世帯(計7名)の移住を実現する

### 3-3 取組みの4つの柱

地域づくりの目標の達成には、移住・定住へと直接的・間接的につながる様々な取組みを進めていくことが必要です。移住・定住先として選ばれるためには、豊かな暮らしが維持されていることはもちろん、子育てや教育の環境、特色ある仕事や新たな働き方のニーズの充足、来訪者との継続的・段階的な関係づくりなどが必要です。

そこで本計画では、以下の4つを今後の取組みの柱として設定します。これらの取組みは、地域の様々な資源(奈川の見方)を生かし、行政や地域外の人たち(奈川の味方)との協働・連携も図りながら進めていきます。

#### 1. 地域の暮らしをささえる

奈川地区全体や各集落における生活を支える機能の維持、医療や高齢者介護などの地域福祉、買い物や交通環境、住まいに関する事など、地域の暮らし全般に関する視点

#### 2. 子どもたちを育む場をつなげる

子育ての環境・仕組みづくりや、保育園の今後の検討、奈川小中学校の新たな展開や教育プログラムの可能性等、地域の次世代を育むことや、多世代の学びに関する視点

#### 3. 奈川ならではのなりわいをつくる

地域での働く環境の整備や農林業など既存産業の新たな展開、さらには奈川の特性を生かした新たな生業(なりわい)づくりやワークスタイルの実践などに関する視点

#### 4. 来訪者との新たな関係をつむぐ

観光に関わるハード・ソフト両面に対する新たな展開、奈川的生活体験などを通じた来訪者との新たな関係づくり、取組みにおける協力体制の構築などに関する視点

## 4 地域づくりの推進

### 4-1 地域の暮らしをささえる

奈川地区や各集落での暮らしをささえる視点です。今後も地域の人たちが助け合って暮らしていくため、地域福祉や医療のあり方、災害時など“いざ”という時の対応、日常的な交流の場づくりなどが大切になります。また、買い物や通勤・通学における交通の足や、地域で受け継がれてきた行事や文化の継承、地域に増えている空き家の対策・活用など、地域課題を解決する取組みについても進めていきます。

1 地域の暮らしを支える			
テーマ	内容	地域とともに取り組む主体	行政の主な連携先
① 住民や来訪者との交流の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の身近な場所における日常的なおしゃべりやお茶を飲める居場所づくり (2023)</li> <li>空き家や空き施設を活用した地域活動・趣味活動などが実現できる場づくり (2024)</li> </ul>	公民館 学校	住宅課 保育課 学校教育課 他施設所管課
② 空き家の調査・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>集落ごとの空き家、所有者の意向調査 (2023)</li> <li>調査結果を用いた空き家カルテづくり (2024)</li> <li>空き家活用の事例の勉強、奈川での展開アイデアの検討 (2025)</li> </ul>	専門家 大学生	住宅課 移住推進課
③ 地域の医療・福祉を支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい診療所を拠点とした地域医療の推進 (2023)</li> <li>地域の実情を踏まえた医療と介護の連携 (継続推進)</li> <li>誰もが安心して暮らせる地域福祉の推進 (継続推進)</li> </ul>	診療所 地区社協	福祉政策課 高齢福祉課 西部福祉課
④ 災害時のためのツール作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>支え合い避難マニュアル等の作成 (2024)</li> </ul>	地区社協	危機管理課
⑤ 移動の足の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>市営バス奈川線のダイヤ・ルートの検証実験 (2024)</li> <li>地域主体のオンデマンド運行の検討、実験 (2024)</li> </ul>	地区社協 宿泊施設	公共交通課
⑥ 地域文化や行事の継承	<ul style="list-style-type: none"> <li>奈川獅子の継承と地域外への情報発信 (継続推進)</li> <li>郷土料理などの文化継承のプログラムづくり (2024)</li> <li>奈川在来を守る取組み (継続推進)</li> </ul>	憐ふるさと奈川	文化財課 観光プロモーション課
⑦ 新たな生活スタイルを叶える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット（光ファイバー網）の段階的整備 (継続推進)</li> <li>クラインガルテンの改修・拡充、入居要件等の再検討 (2023)</li> <li>多拠点居住、ワーケーション等の奈川での展開方策の検討・推進 (2024)</li> </ul>	クラインガルテン居住者 移住希望者 奈川ファン	DX推進本部 農政課 移住推進課 観光プロモーション課
⑧ 生活を支えるインフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>県道、トンネルの整備 (継続推進)</li> </ul>		長野県 建設総務課

( ) は重点的な推進をはじめめる目標年度

## 4-2 子どもたちを育む場をつなげる

持続可能な奈川地区のためには、地域で子どもたちを育てていくことが不可欠な視点です。休園中の保育園の今後のあり方の検討とともに、奈川小中学校だからこその学びの可能性や、魅力的な学校づくりについて地域ぐるみで取り組んでいくことが求められます。人生100年時代の“大人も学び続ける”という視点も含め、奈川の特徴を生かした「学べる奈川」の実現を目指していきます。

2 子どもたちを育む場をつなげる			
テーマ	内容	地域とともに取り組む主体	行政の主な連携先
① 地域ぐるみの子育て環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で子どもを預かることができる仕組みづくり（2023）</li> <li>・保育園の存続等に関する要件などの検討（2023）</li> <li>・保育園施設の暫定的活用の検討・検証と新たな展開（2025）</li> </ul>	公民館 福祉ひろば 学校	保育課 こども育成課 学校教育課
② 奈川小中学校の新たな展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山三校の連携の仕組みづくり（2023）</li> <li>・オンライン学習の充実、小規模校の特色ある学びの推進（2023）</li> <li>・自由進度学習の取組み（2023）</li> <li>・小中学校の空きスペースの利活用（2024）</li> <li>・地域住民による学校サポーターの仕組みづくり（2024）</li> </ul>	学校 PTA 専門家 大学生	教育政策課 学校教育課
③ 学びから移住につながる体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈川での教育や子育てを体験するための受け入れ体制づくりと施設整備（2023）</li> <li>・松本デュアルスクール等の新たな仕組みや体制づくり（2023）</li> </ul>	学校 宿泊施設	教育政策課 移住推進課 学校教育課
④ 地域資源を生かした学びのプログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと大学生との遊び・学びの場づくり（2023）</li> <li>・白樺峠のタカ見の広場の整備（看板、駐車場、トイレ等）による学びや研究の推進（2024）</li> <li>・「森の演奏会」など環境と音楽を融合したイベント（2024）</li> <li>・地域住民やクラインガルテン居住者による「まちの先生」のプログラム（2024）</li> <li>・自然観察の森などを活用した環境教育（2024）</li> </ul>	学校 公民館 クラインガルテン居住者 大学生	アルプスリゾート整備本部 教育政策課 学校教育課 生涯学習課 地域づくり課
⑤ 地域や学校での学びを支える人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や学校での学びや教育をコーディネートする人材の発掘・育成（2025）</li> </ul>	学校 奈川ファン	教育政策課 生涯学習課

（ ）は重点的な推進をはじめめる目標年度

### 4-3 奈川ならではのなりわいをつくる

奈川地区で生活していくうえで必要になるのが仕事づくりの視点です。地域の資源を生かした奈川ならではの仕事（なりわい）を、自分たちで生み出していくことが必要です。今の若い世代は地方の自然・文化の豊かな環境で仕事を生み出し、新しいライフスタイルの実現を求める人が増えています。そのような人たちにとっても奈川に魅力を感じてもらい、奈川での生活の新たなモデルを生み出してもらうことも大切な視点です。

3 奈川ならではのなりわいをつくる			
テーマ	内容	地域とともに取り組む主体	行政の主な連携先
① スモールビジネスの展開をサポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「起業塾」の展開や、なりわいづくりの支援（2023）</li> <li>・大学生などの地域インターンシップの展開（2024）</li> <li>・地域おこし協力隊などの受け入れによる起業や地域支援（2024）</li> <li>・テレワークや多拠点居住、年間を通じた複業などを支える仕組みづくり（2025）</li> </ul>	大学生 奈川ファン	地域づくり課 商工課
② 奈川の資源を活用した商品開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保平カブなど農産物や林産材を活用した特産品づくり（継続推進）</li> <li>・耕作放棄地の解消や活用に関わる仕組みづくり（2024）</li> <li>・奈川の生産物を使ったお弁当の開発・販売（2024）</li> <li>・生活体験型の新たな観光プログラムの開発（2024）</li> <li>・新規商品開発と販売チャンネルの提供（2024）</li> </ul>	地区社協 （株）ふるさと奈川 奈川ファン グリーンコープ	農政課 観光プロモーション課 アルプスリゾート整備本部
③ 農林業等のチャレンジを支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばを活かした地域振興のさらなる展開（継続推進）</li> <li>・薪割機の購入補助、地元産材の活用補助（2025）</li> <li>・広大な森林資源の利活用の検討・展開（2024）</li> <li>・市有林における町会貸付林の活用と管理（2024）</li> <li>・住宅メーカーとの企業協定・支援（2024）</li> <li>・農地の維持や農業の後継者確保の取り組み（2024）</li> <li>・そば店の新規出店の支援（2024）</li> <li>・スマート農業推進、新規作物チャレンジ（2024）</li> <li>・森や川に関わる仕事づくりワークショップ（2024）</li> </ul>	町会 （株）ふるさと奈川 アルプス山岳郷 そば協議会 さとやまエネルギー	農政課 森林環境課 商工課
④ 滞在施設等の新たな活用・展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラインガルテンのリモートワークや、施設活用などの新たな展開（2025）</li> <li>・観光施設や市営住宅、教員住宅のシェアオフィス等の展開（2025）</li> <li>・空き家を活用したゲストハウスづくり（2025）</li> <li>・共同売店や共同カフェなど地域で暮らしをささえる小さなビジネス展開（2025）</li> </ul>	クラインガルテン居住者 奈川ファン	住宅課 移住推進課 農政課 学校教育課 アルプスリゾート整備本部

（ ）は重点的な推進をはじめる目標年度

#### 4-4 来訪者との新たな関係をつむぐ

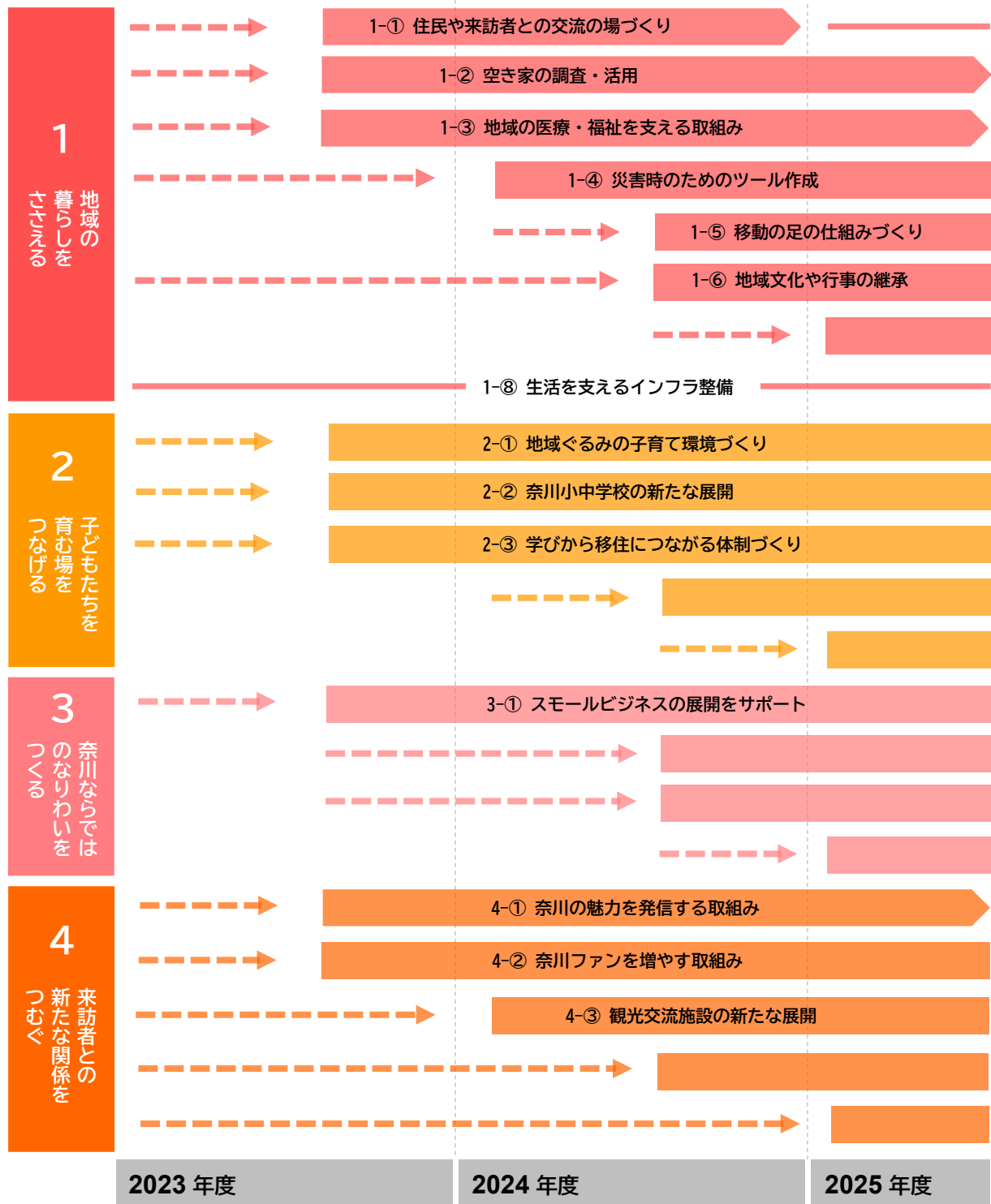
奈川地区の今後の地域づくりにおいて活動の仲間づくりは重要な視点です。地域住民が主体となりながらも、地域外の「奈川ファン」を生み出して一緒に取組みを進めることも必要となってきます。観光においても繰り返し奈川に足を運んでもらえる関係づくりが必要です。また、地域外に住んでいる家族や親戚など、奈川での生活や活動の支えとなる関係について、あらためて見直していくことも必要です。

4 来訪者との新たな関係をつむぐ			
テーマ	内容	地域とともに取り組む主体	行政の主な連携先
① 奈川の魅力を発信する取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈川を紹介するリーフレットやマップ、オンラインの仕組みづくり（2023）</li> <li>・観光拠点やクラインガルテンでの交流（2023）</li> <li>・旧野麦峠街道を中心とした歴史・文化を伝えるツアー等の開発（2023）</li> </ul>	㈱ふるさと奈川 アルプス山岳郷 クラインガル テン居住者	観光プロモーション課 農政課 アルプスリゾート整備本部
② 奈川ファンを増やす取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「奈川ファンクラブ」の新たな展開（継続推進）</li> <li>・森の里親制度など環境保全の活動（継続推進）</li> <li>・地域住民と来訪者の交流の場づくり（2023）</li> </ul>	㈱ふるさと奈川 奈川ファン	移住推進課 地域づくり課 森林環境課
③ 観光交流施設の新たな展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野麦峠スキー場の今後の方向性の検討（2023）</li> <li>・野麦峠スキー場のサマーシーズンの活用（2023）</li> <li>・ウッドィ・もっくやキャンプ場の設備更新（2024）</li> <li>・フォーレストフィールドの新たな活用展開（2024）</li> <li>・キャンプ場での多様なプログラムの提供・充実（ブッシュクラフト、農業体験キャンプなど）（2023）</li> <li>・そばの里としての魅力づくり（新規店誘致や起業の支援、そばの打ち手の育成など）（継続推進）</li> <li>・国内外旅行者への上質な滞在観光の提供（2025）</li> </ul>	㈱ふるさと奈川 飲食店 宿泊施設	アルプスリゾート整備本部 商工課
④ 地域外の若い世代との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域外の若い世代の活動の機会の創出（継続推進）</li> <li>・大学生など若者が生活・仕事体験を通じて地域との関りを深めるプログラム（2023）</li> </ul>	大学生 奈川ファン	地域づくり課
⑤ 段階的な移住・定住につなげる取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈川の人や生活の魅力を知ってもらう観光プログラムの開発（2023）</li> <li>・移住を見据えた婚活モデルツアーの実施（2023）</li> <li>・奈川地区への移住についてアドバイスやコーディネートできる人材の発掘、育成（2024）</li> <li>・クラインガルテンの観光利用等、新たな活用展開（2025）</li> <li>・特区的な仕組みづくりの検討（2024）</li> </ul>	㈱ふるさと奈川 奈川ファン	観光プロモーション課 移住推進課 アルプスリゾート整備本部 農政課 総合戦略室 地域づくり課

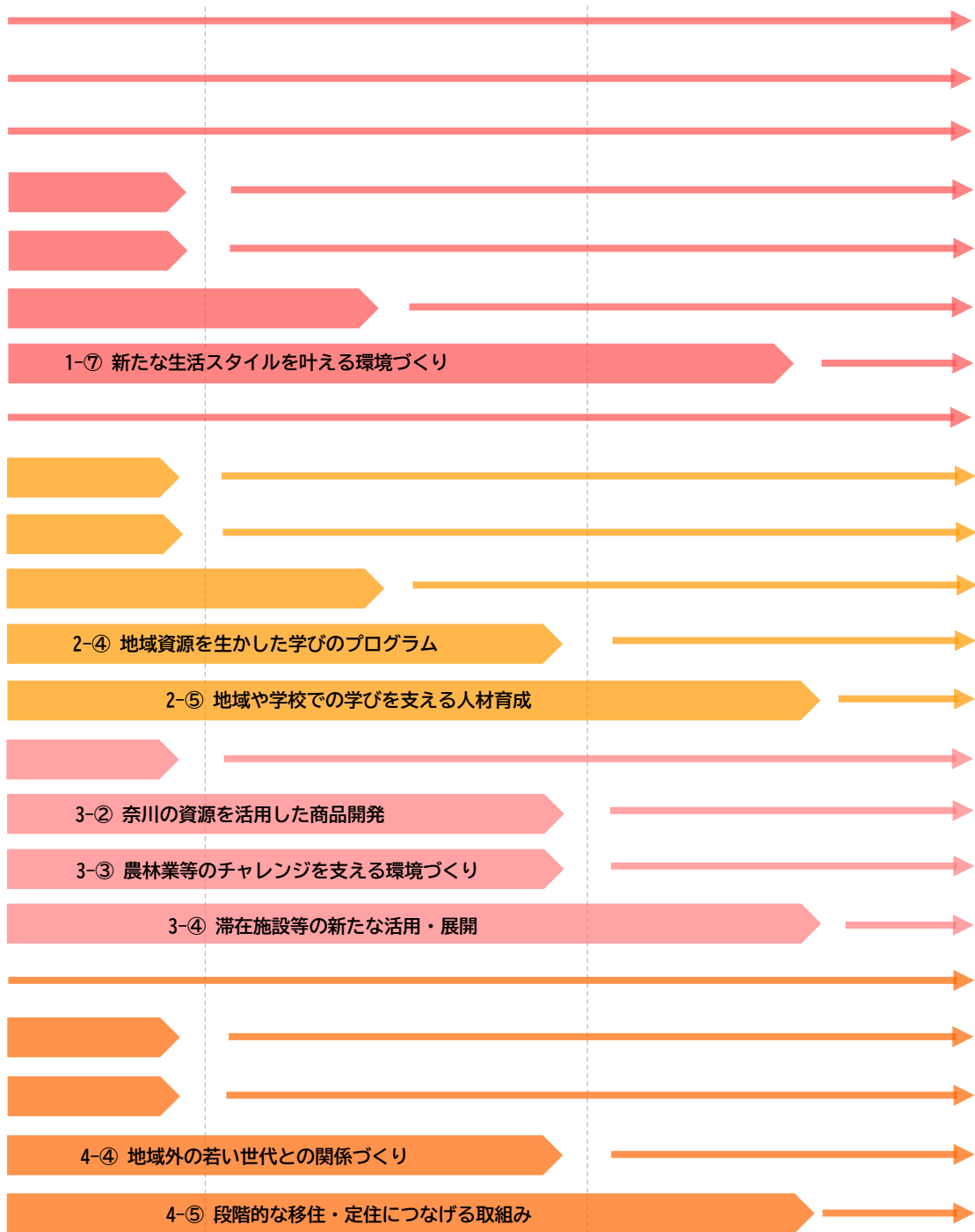
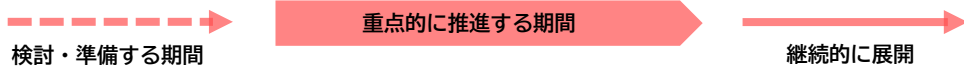
( ) は重点的な推進をはじめの目標年度

#### 4-5 4つの柱と取組みのプロセス

これまでに示した4つの柱の取組みについて、重点的に推進する時期などを「道標」として整理しました。これらは、本協議会や地域が主体となり行政関係課と連携をしながら、今後5年以内に各取組みを進めていくことを想定しています。また、社会情勢や進捗状況の変化によって、必要に応じて適宜見直しも行っていきます。



奈川のみかたをふやす道標（みちしるべ）



人と暮らしと活動を、受け継ぎ・生み出す、持続可能な奈川地区

2026 年度

2027 年度以降

## 5 今後の重点的な取組み

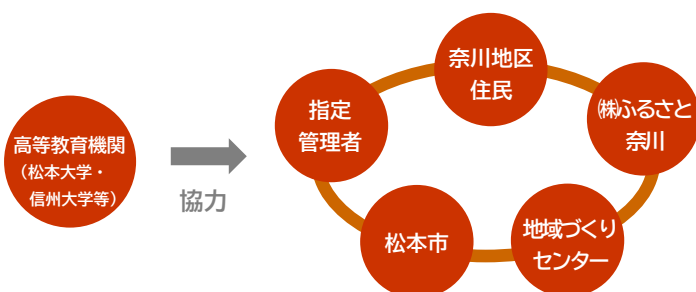
地域の課題解決や今後の可能性について、行政（主に松本市）との連携を図りながら、早急かつ重点的に取り組んでいくべき内容が見えてきました。

これらの取組みについては、交流人口や関係人口を増やすとともに、移住定住に結びつける施策を展開するため、松本市としても特区的な仕組みについて検討していきます。地域と行政があらためて当事者意識を共有し、他地域で取り組まれている事例などを学び合い、奈川地区ならではの動きとして実験と検証を行いながら、早急に方向性を定め、具体的な取組みを展開していきます。

### 5-1 奈川地区の観光・交流施設の新たな展開について

ウッディ・もっくやキャンプ場などの観光交流施設については、老朽化や維持管理費のさらなる増加や魅力の低下などが懸念されていることから、新たな施設整備や更新が必要と考えます。具体的には、ウッディ・もっくの建替えやキャンプ場の施設整備を進めることで交流人口や関係人口を増加につなげるため、関係課と連携しながら調整を図っていきます。

奈川地区全体が多様なキャンプを受け入れることができる資質があることから、フォーレストフィールドの新たな利活用をはじめ、奈川地区内でさまざまなスタイルのキャンプに対応できる方向性の検討を行っていきます。



各主体の参加によるプラットフォームをつくり、2023年度内にスキー場を含めた各施設の今後の方針を検討・決定する。

特に野麦峠スキー場については、地域の皆さんの想いが詰まった場所であることから、存続か廃止かといった二者択一の議論ではなく、利用客数や採算性の検証に加え、本計画で示した地域づくりの方向性に照らし合わせながら、サマーシーズンの地元活用や大胆な施策による実験・検証を検討し、2023年度内には今後のあり方を決めていきます。



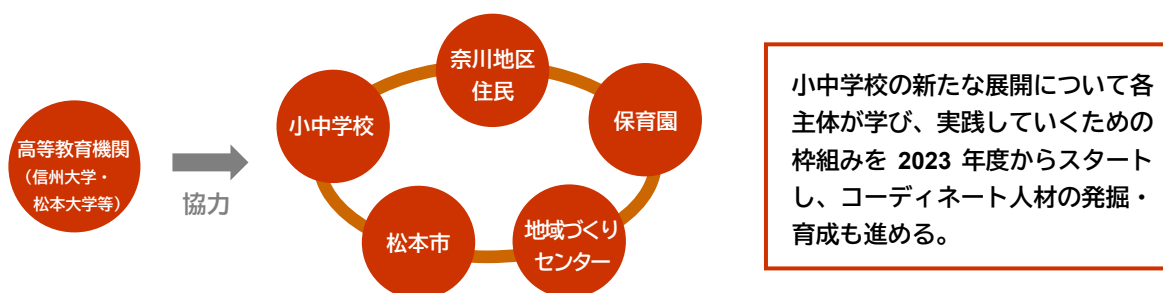
野麦峠スキー場



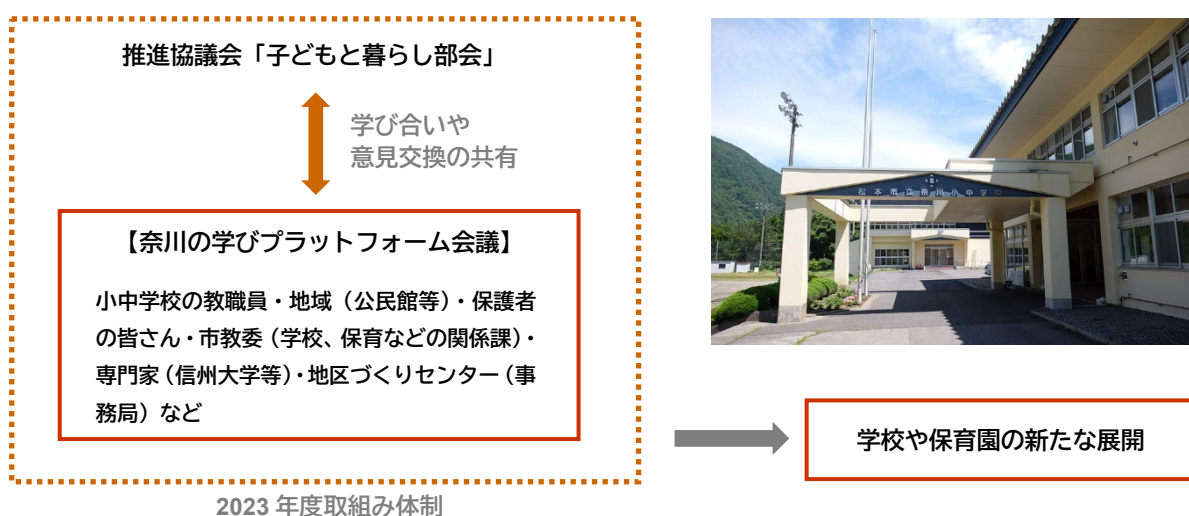
## 5-2 奈川保育園や奈川小中学校の今後の可能性について

2019 年度から休園している奈川保育園については、人口増など地域事情の変化に伴う再開の検討や新たな活用方策の検討・実験・検証を進めていきます。地域の学び・教育の環境は、地域を担う次世代を育むとともに、移住などにも影響する大切な視点です。奈川小中学校については、当事者である子どもたちや保護者の想いも大切にしながら、今後のあり方について検討していきます。小規模校の強みを生かした教育プログラムや仕組みづくり（松本デュアルスクール、自由進度学習など）についても、その検討と実践を着実に進めていきます。学校と地域、さらに近隣地区（山三校）と連携した仕組みづくりについて、大学等の専門機関とも連携しながら事例を学び、奈川地区ならではの取組みを展開していきます。

また、奈川における教育・学びのあり方について、教職員や住民、行政などと連携しながら地域や学校での取組みを推進していく人材（教育コーディネーター）の発掘・育成についても進めていきます。



2023 年度は推進協議会の「子どもと暮らし部会」において、小中学校や保育園の今後について検討を進め、その内容をとりまとめていく「奈川の学びプラットフォーム会議」を開催します。プラットフォーム会議の内容や成果については、「子どもと暮らし部会」において地域全体への共有を図っていきます。



### 5-3 公共交通や地域主体の移動の足のあり方について

高齢者の買い物等の移動手段や高校生の通学の課題など、市営バス奈川線のダイヤやルート、運営のあり方についてより良い形を検討していきます。また、地域が主体となったオンデマンド運行の仕組みなど、他地域での事例などを学びながら実験・検証を進めていくことが考えられます。

社会福祉協議会の公共交通空白地有償運送事業の取組みなどに加え、宿泊施設が持っている車両の活用など、奈川地区の資源を有機的に活用した仕組みづくりも考えられます。



奈川地区内のバス停

### 5-4 クラインガルテンの地域での新たなあり方について

奈川地区に3か所あるクラインガルテンは、これまで移住・定住につながった事例もありましたが、今後、新たな展開方策も検討していく時期となります。設備更新や光ケーブルの導入も計画されており、農の活動の視点だけではなく、半定住やリモートワークの拠点など、奈川地区を一つの生活・仕事の場とするような新たな「仲間」を増やしていく場としても期待されます。



おおはらクラインガルテン

また、利用者への売却や、移住や観光利用を見据えた新たな建設などの可能性についても検討していきます。松本市とも連携しながら、地域が求める利用者像の設定や、利用要件の再整理、社会実験（交流イベント等）などの取組みを進めていきます。

### 5-5 農林業の維持・継承の仕組みづくりについて

農林業の後継者不足は、奈川地区において大変深刻です。松本市では「産業」としての農林業に「環境」の視点を加え、地域の林業を積極的に推進するための具体的な個別施策を展開していきます。

奈川地区の農業については、そばを活かした地域振興を進めていくために、鳥獣害対策をはじめ、農地の維持や後継者確保、伝統野菜や高原野菜の販路拡大などに向けた取組みを行政やJAなどと具体的に検討していきます。



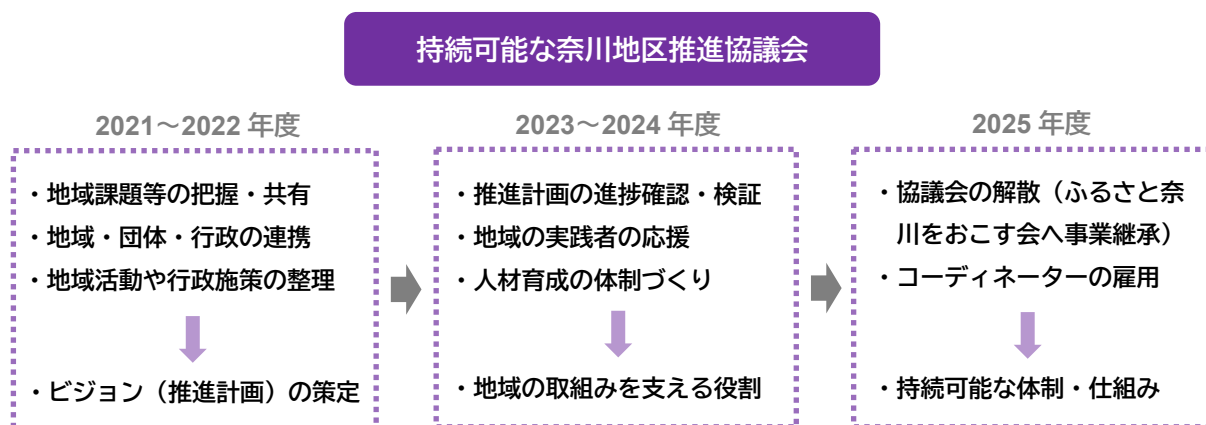
「ミサワホームの森」の取組み

林業においては、「ぶなの森」事業や「ミサワホームの森」事業などを継続するとともに、住宅メーカーとの協定を結ぶなど、地域との関わり方や支援策などについて、行政も交えながら進めていきます。また、市有林の町会貸付林については、今後の維持管理や活用方法について検討していきます。

## 6 地域づくりの実現に向けて

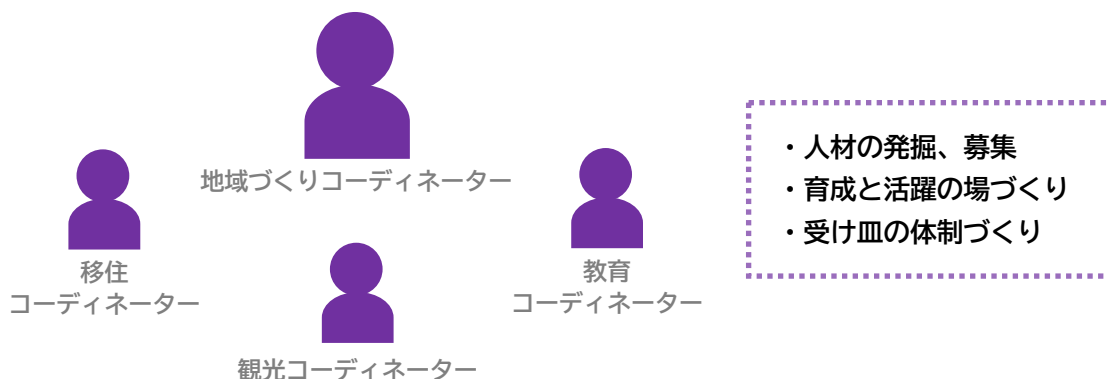
### 6-1 計画の推進を支える体制づくり

本計画の実現に向けては、この中で定められた奈川地区の目指すビジョンについて、地域づくりに関わる全ての人たちが、その考え方を共有していくことが大切です。また、4つの視点で整理されたそれぞれの取組みについて、その優先順位をさらに明確にしながら進めていくことが求められます。持続可能な奈川地区推進協議会においては、本計画の推進について確認・検証を行い、さらに必要に応じて修正を図りながら着実に歩みを進めていくことが必要となります。また、協議会の役割としては、地域課題の検討などを通じて計画づくりを進めてきた役割から、地域での活動主体（実践者）を支援する役割への移行も必要となってきます。



### 6-2 計画の推進を担う人材の発掘・育成

持続的な奈川地区を実現させていくためには、本計画の推進をはじめ、奈川地区での様々な取組みをコーディネートする人材の発掘と育成が必要となります。地域おこし協力隊や集落支援員制度など国の制度活用なども視野に入れながら、人材募集や地域での活躍の場を段階的に用意していくことも想定されます。奈川の地域づくり全体をコーディネートする人材や、地区の移住や教育、観光などの分野別でコーディネートする人材についても、その必要性を検討し、地域での受け皿の体制づくりも含めて取組みを進めていきます。



## 6-3 地域主体の新たな活動を生み出す動き

### ① 「検討」から「実行」のためのワークショップ

持続可能な奈川地区推進協議会では、推進計画づくりと並行して、住民主体による新たな活動を生み出すための取組みを進めてきました。2022年11月からは、地域でのワークショップ「奈川ぐるぐるカフェ」がスタートしました。奈川保育園や市営住宅の空き家、クラインガルテンの管理棟などを会場に、地域にお住まいの方をはじめ、クラインガルテン利用者や大学生、松本市職員など多くの方々の参加がありました。奈川の今後の地域づくりのビジョンについて意見を出し合うとともに、他地域の事例も学びながら、今後、自分たちが取り組んでいきたいことについて、アイデアを出し合いました。



奈川ぐるぐるカフェ

2023年1月からは、具体的な活動アイデアや企画を生み出し、実行に移していくための「奈川ぐるぐるカフェ作戦会議」へと展開しました。“奈川の集いの場づくり”と“奈川を応援する仲間づくり”の2つの視点から意見交換をスタートし、活動内容ごとにチームに分かれ、新たな活動の企画づくりを進めました。

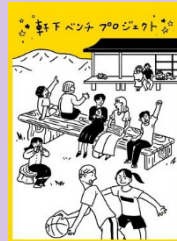


奈川ぐるぐるカフェ作戦会議

各回のワークショップでは先進事例を調べて持ち寄ったり、企画の試行をしたり、チームごとにオンライン会議も行うなど、参加メンバーの主体的な流れも生まれました。

## ② 新たな活動を地域みんなで応援

2023年5月27日に「ながわ“種まき”交流会」と題したイベントを開催しました。ワークショップで生れた5つの企画の発表があり、イベントに参加した地域内外の方々からは、「一緒に活動したい」、「協力したい」、「参加したい」といった応援の声が聞かれました。



### 軒下ベンチプロジェクト

奈川地区で人と人が会って話したり、集まったりする場づくりです。ベンチは立派でなくてもいい。奈川のあちこちに置いていきたいと思います。まずはお寺やパン屋、新しい診療所前にも置きはじめました。

【計画との関連：1-①】



### 青空マルシェ&マーケット

奈川の魅力を知り、遊んで食べて交流する。大人も子ども、地域の人も外の人も、ワクワク笑顔になるマルシェを企画。2023年夏は野麦峠スキー場で、地元野菜の販売やフリーマーケットで交流や自然とふれあいます。

【計画との関連：1-①、2-①、4-②】



### 奈川のあれこれ情報発信

奈川の日々の取組みについて、様々な媒体で発信されている情報を一元化し、誰もが簡単にアクセスできる仕組みをつくります。取材や編集に参加する人も増やし、活動や知恵が循環していくきっかけをつくります。

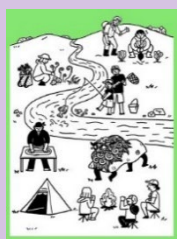
【計画との関連：4-①、4-②】



### 奈川の暮らしと歴史のアウトドアツアー

奈川に移住きて、ここの生活や自然、文化の豊かさを実感しました。その魅力を自分の言葉で様々な人たちに伝えたい。アウトドアツアーの会社を立ち上げて、ツアーの企画や運営、情報発信をしていきます。

【計画との関連：3-①、4-②、4-④】



### 奈川インターンシップ

地域外の若者が奈川の生活や仕事を体験します。新たなつながりや地域への愛着を持ってもらうことで、継続的に活動や仕事を奈川で展開してもらう仕組みにつなげます。

【計画との関連：3-①、4-②、4-④】

これらの住民主体の活動は、本計画の推進においても大切なものばかりです。4章「地域づくり推進」においては、取組みの主体がまだ十分ではない内容も存在しています。今後も、このようなワークショップ等を通じて、地域住民や連携者による新たな取組みの主体を生み出し、地域ぐるみで応援していくことが必要となります。

## おわりに



持続可能な奈川地区推進協議会  
会長 勝山 裕康

「持続可能な奈川地区推進協議会」は、平成 29 年に立ち上げた地域づくり協議会である「ふるさと奈川をおこす会」を活動のベースにしながら、それまでの住民主体の活動に松本市と関係団体等が加わり、共に活動の主体となる組織を作ったことが最大の特徴です。

松本市にとってもこうした活動組織は過去に例がなく、臥雲市長をはじめ嵯峨副市長や庁内部局、さらには松本市職員有志の庁内奈川応援チームがこの活動に賛同・参画していただいていることは、奈川地区にとってこれ以上の応援体制はありません。また、信州大学の荒井准教授ならびに松本大学の古川専任講師の先生方にも参画いただきご指導をいただいております。さらに、奈川地区住民からは、働き盛り世代の方々にも入っていただき、より幅広い年代の意見や提案を取り入れる体制としました。

ここに「道標」として、持続可能な奈川地区の方向性を示すことができました。組織体制から見ても、この活動は奈川が生き残れる最大の機会です。これを逃したら、奈川の持続性はないと考えなければなりません。

持続可能な奈川を実現するベースは、奈川地区の住民が健康で蕎麦や野菜を作り、地区内にある道路や水路等の整備、草刈りや除雪で生活基盤の維持を行い、花などで奈川をきれいにすることなど日常の活動を続けていき、この美しい自然があふれる奈川を荒廃させないことにあり、持続可能な奈川の活動に参画している証であると考えます。

今後も皆さんの意見を取り入れながら、共に働き奈川の未来を作っていきましょう。

古くから野麦街道や鎌倉街道が整備され、街道沿いのまちとして人流や物流の要所として発展した奈川地区は、昭和 50 年代には映画「あゝ野麦峠」のヒットや野麦峠スキー場の開業を受け観光地として隆盛を迎えました。当時 1,400 人を超えていた人口は、観光客の落ち込みや生活環境の変化とともに減少の一途をたどり、平成 17 年の松本市と合併時に約 1,000 人、現在は 600 人を下回っています。

今回策定する『持続可能な奈川地区推進計画 2023』は、「奈川のみかたをふやす道標」と題し、人口減少と少子高齢化が著しい奈川ゆえの深刻な課題に対して地域がどう向き合い、行政と如何に連携して持続可能な地域を目指していくか、包括的に示しています。

地元の皆さんが中心となり有識者とともに取りまとめた推進計画には、文字通り奈川の現状と課題が浮き彫りにされ、「奈川に暮らす人々が人として幸せに生きるには」という根源的な願いや、解決が難しいアポリアの問いも含まれています。決して簡単な道のりではありませんが、松本市は、地元の方々の思いを大切にしながら、市役所の通念的な思考を超えて持続可能な地域づくりを支援していきます。

奈川の自然環境や歴史文化、人々の暮らしの「見方」を捉え直し、脱一極集中の流れを奈川への移住や定住へと誘う「味方」につなげていくことで、持続可能な循環型社会の土台をつくり、奈川のシンカに取り組んでいきます。



松本市長 臥雲 義尚

持続可能な奈川地区推進協議会

役職	氏名	団体名	職名
会 長	勝山 裕康	ふるさと奈川をおこす会、奈川地区町会連合会	会長
副会長	奥原 俊美	働き盛り世代	代表
副会長	藤森 誠	松本市	住民自治局長
委 員	荒井 英治郎	信州大学	准教授
委 員	古川 智史	松本大学	専任講師
委 員	奥原 邦義	ふるさと奈川をおこす会、奈川地区町会連合会	副会長
委 員	忠地 愛男	ふるさと奈川をおこす会	教育・健康福祉部会 部会長
委 員	高宮 澄男	ふるさと奈川をおこす会	地域振興部会 部会長
委 員	奥原 成章	ふるさと奈川をおこす会	防災・安全・環境部会 部会長
委 員	奥原 仁作	(株)ふるさと奈川	代表取締役社長
委 員	関谷 健司	働き盛り世代	代表
委 員	奥原 好恵	働き盛り世代	代表
委 員	齋藤 元紀	(一社)松本市アルプス山岳郷	代表理事
委 員	石田 英幸	松本市	アルプスリゾート整備本部長
委 員	百瀬 由将	松本市	こども部長
委 員	逸見 和行	松本市	教育次長
委 員	近藤 潔	松本市	総合戦略室長

事務局

課名	職名	氏名
奈川地区地域づくりセンター	センター長	高山 昇
	センター長補佐	上原 慎一郎
	主任	古畑 節子
	主事	氏原 美幸
地域づくり課	課長	廣田 圭男
	課長補佐	床尾 拓哉

奈川のみかたをふやす道標 - 持続可能な奈川地区推進計画 2023 -

発行年月 2023年8月

発 行 持続可能な奈川地区推進協議会（事務局：奈川地区地域づくりセンター）

〒390-1611 長野県松本市奈川 3301 番地

TEL 0263-79-2121 FAX 0263-79-2903

編集協力 studio-L

